

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に職員全員で話し合い作成。健康で笑顔を忘れずに、地域の中で生活できるよう支援していくことを提示している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、事務室に掲示している。朝礼、カンファレンス時に唱和しを行い、理念を念頭に置き、入居者へケアができるようにしている。	○ 職員異動により、新たな体制作りを実施している。話し合いの時間を多く取り、統一对応が出来るよう努めていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	利用契約時や面会時等に、理念に基づいた取り組みについて理解をいただけるよう説明している。	○ 具体的な取り組みを提示し、家族、地域へ協力を呼びかけていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	管理者や職員は、日常の散歩や行事の際に挨拶や情報交換等をしている。外部からの慰問や行事企画を行い、気軽に立ち寄って頂ける雰囲気作りに努めている。	○ ホームの存在をアピールしていく具体的な取り組みが必要
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	学校の運動会や地区のお祭りなど、地域の行事に参加している。	○ 中学校の福祉体験学習受け入れなど、地域との連携を強化し、交流の幅を広げていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	面会時や運営推進会議時に家族や地域住民からの相談、要望等を確認している。高齢者の安心生活につながるよう意見交換している。	○	地域の高齢者に気軽に立ち寄っていただけるような環境作り、交流方法を具体的に検討していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	定期会議時に実施の意義について説明し、評価を通して改善が見つかるようにしている。初回のため、全職員の統一認識としては不十分の感はある。自己評価については、全職員が評価を実施し、管理者と統括責任者によりとりまとめ、定期会議内で総確認を実施している。	○	評価内容を基に改善に取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの状況報告を行い、行政や地区の情報をいただいている。意見を基に改善点の発見、取組内容の確認を行っている。会議顛末はホーム内の廊下に掲示し、面会家族や来客者に確認いただいている。	○	会議の意見を参考に改善に努めていきたい。会議の議題について、事前に職員間で内容を確認していくことも課題となる。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	提出書類や案内状を届ける際に、関係者との意見交換を行っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在対象となる利用者はいない	○	職員は、勉強会や研修に参加し必要な知識を得ることが必要と考える。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議や日常のなかで、職員の意識確認を行っている。	○	虐待の防止徹底に今後も努めていく。防止法が定義する項目で、特に職員の言動面に注意していく。入居者にとって、日頃接する職員の言葉かけが心理的なダメージにならないよう、全員で注意を促していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、文書を基に説明を行っている。入居後も不安や疑問点について面会や電話による状況報告時に随時確認している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に見えた際に話を伺い、改善に努めている。玄関に意見箱を設置し記入できるようにしている。	○	意見箱とは別に、今後ホーム側からの意見確認方法を具体的に検討していきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	法人の情報新聞「さんぽみち」を請求時に同封している。日常的には、個々の状態に合わせ面会時などに報告している。面会が少ない家族や遠方者へは電話での定期報告を行っている。	○	距離や生活状況により、家族への連絡が取りにくい場合もあり、今後はホーム便りを作成するなど実施していきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に見えた際には、要望や意見を確認している。頂いた意見等は内部会議やミーティング時に改善策を話しあっている。	○	アンケート実施や家族会の発足など、定期的に意見を確認できる方策を検討していきたい。気軽に意見をいただけるような雰囲気づくりにも努めていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日常業務のなかで意見交換をしている。管理者や統括責任者は職員個人面談時にも意見交換を行い、改善に繋げている。	○	職員同士が意見を言いやすい雰囲気づくりに努めていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の状態や家族の要望などを確認し、状況に合わせた対応が可能なよう、ケア内容や勤務体制を調整している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動がある場合は事前に入居者へ説明を行っている。新入職の場合も実習等事前に接する時間を設け、なじみやすい状況作りに努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に順番で外部研修に参加している。研修後は報告書を基に各自意見交換や確認を行い。情報の共有を図っている。	○	幅広い内容の研修に参加、勉強会を実施出来るようスケジュールを組んでいきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣施設の行事に参加させていただいている。入居者の紹介もいただいている。管理者は地区のケアマネ会議にも参加し、交流や情報交換を実施している。	○	合同での勉強会や様々な活動を行う機会を作っていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	親睦をはかれるよう、職員旅行への参加や食事会等を実施している。個人面談や職員間の話し合いによりストレスの軽減に向けた意見交換を実施している。	○	職員均等に休憩時間・場所の確保を行っていきたい
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個人面談のなかで、勤務状況や目標などを話し合っている。職員の経験年数等を勘案し、ホーム内での役割、目標を設定し取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に本人、家族にホームへ足を運んでいただき、雰囲気を確認していただいている。その際に確認事項を話し合っている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	前項同様に実施		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の状況、生活の背景を知り、本人の望みを把握し、総合的な要望に沿った対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居されるまでに可能な限り時間を取らせて頂き話を伺っている。ホームの雰囲気も感じて頂くことと併せ、数回の相談によって利用者及び家族の疑問、不安の解消が出来るよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の会話の中で昔の出来事や習慣など地域の話をついで、勉強している。人生の先輩である入居者から知恵袋的なことも学ばせて頂いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	地域の行事には家族の方にも参加していただき、一緒に楽しめるよう配慮している。	○	行事の企画を呼びかけていきたい
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族のそれぞれの気持ちは、これまでの関係や現在の立場で異なるものである事を、全職員が認識し、本人にとって不都合無い関係を続けていただけるよう調整に努めている。	○	職員間で認識の差による不都合が出ないように調整していきたい
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の知人・友人が面会され、一緒にお茶をのみ交流したり、本人自宅周辺や、馴染みの場所を散歩・ドライブで周る等取り組んでいる	○	個別のニーズをさらに探り、対応していきたい
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者が全員で参加できる行事を考えている。レクリエーションやお茶の時間で交流の時間を多く持ち、孤立しないよう対応している。	○	利用者毎に異なる生活歴や価値観を、職員が間に入り、調整することで、今後も共同生活を円滑に行っていききたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後も電話などで、状況の確認を行っている。本人と手紙のやりとりが続いている方もいる。	○	行事などの際に、招待できる関係を続けていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々に話せる雰囲気作りをし、実行に移せるよう話し合いをしている。日常会話の中から入居者の要望を感じ取れるよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・関係先からできるだけ細かい話を伺い、本人にとって快い生活につながるよう努めている。	○	職員間で認識の差による不都合が出ないように調整していきたい
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員の観察により過ごし方を確認。記録、業務日誌、申し送りを活用し、情報の漏れがないよう努めている。往診医師との連携により、心身状態の把握に努め、状態に応じた生活が送れるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	各入居者の担当を決め、生活の中での要望等を確認している。その意見を反映し介護計画を立てている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に介護計画の見直しを行っている。見直し以前に生じた状態の変化の際は、速やかに本人・家族へ報告、相談を行い、新たな介護計画の作成を実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録へ記入し、確実に申し送りを行うことで、職員間で情報を共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人クリニックの医師に特変時は対応を確認している。通院時に家族介助が困難な場合は、職員による付添いを実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の慰問ボランティアが来所している。保育園、中学校などの行事に招待され交流を行っている。	○	ボランティアの方々に協力頂けるよう、地域に呼びかけていきたい
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	定期的に地域のケアマネージャー会議に参加し、情報を交換している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現状では協働はしていない。	○	権利擁護など、総合的な必要性を検討し連携していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医のある入居者へは、適切な医療が適時受けられるよう状況の報告を行っている。また、入居契約時に協力医の説明を行い、同意して頂けた方へは協力医師による1回/月の往診を実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医師からは生活上の支援方法等、詳しく助言をいただいている。薬に極力頼らない支援を医師からは提示があり、職員共通の認識として実践に努めている。	○	職員間で認識の差による不都合が出ないように調整していきたい
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	現在看護職との協働はない	○	入居者の安心生活へつながる支援体制の整備を行ってきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中は管理者や職員が病院を訪問し、状態確認や情報交換・状況把握に努め、早期退院に備えている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化していく過程において、家族や協力医との話し合い、相談を随時実施し、具体的なケア方策を検討している。終末期ケアの対象者が出た場合は、本人にとって望む最後を迎えられるよう、支援に努めていきたいと考えている。	○	状況を予測して、具体的なケアに備えた事前の話し合い、勉強会を実施していく。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	「できること・できないこと」の見極めを話し合いの中で引き続き実施し、支援に繋げていきたいと考えている。	○	終末期に向けた支援体制を家族、医師、職員が連携していけるようにしたい
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	関係者間での事前の話し合いを十分に行うようにしている。転居後も問い合わせがあれば、都度対応できる体制にしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉使いには常に注意し、信頼できる関係作りに努めている。個人情報には漏れないよう関係書類は鍵のある書庫に保管している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	外出や嗜好品等の希望を受け入れ、実行できるようにしている。状況により選択できる場面の設定を行い、本人の自己決定を尊重している。待つことを心掛け、希望や意見を表出できる声掛けに気を付けている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望を尊重し、入浴などもゆっくり入って頂いている。入居者本位の行動ができるように対応を心掛けているが、他者との調整や勤務状況などで支援しきれない場合もみられる。	○ 入居者の目線に立ったケアが実施出来るようにしていきたい
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	洋服等をご自分で選択し、着こなしていただいている。出張美容を利用している。行きつけの美容室希望の方は家族にお願いしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みを取り入れたメニューを考え、提供している。各入居者の力量に合わせ調理準備や後かたづけ等の役割を持っていただき、職員と共に実施している。職員も一緒にテーブルで会話をしながら食事を楽しんでいる。	○ 調理の準備、後片付けを一緒に行えるよう、積極的に働き掛けていきたい
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の希望を受け入れている。時にビュッフェ形式の選択メニューで好きなものを食べてもらえるよう、提供の工夫をしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレ表示を明確にし、トイレでの排泄が行えるように促している。必要な方には、排泄パターンにあわせてトイレへ誘導している。入居者の様子を観察し、排泄のサインを見逃さないようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日と時間は決まっているが、ゆったりと入浴できる時間を設け楽しんで頂いている。日替わりで入浴順は変更している。	○	入居者の希望する時間に入浴できるよう体制作りをしていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	自己決定を尊重し、個々の生活リズムを大切に考え、睡眠、休養を取って頂いている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の力量に合わせ、洗濯物干し・たたみ等の役割を日常的に行えるように支援している。本人が希望されるレクリエーションの内容を提供し、気分転換を図れるよう支援している。	○	買い物やドライブなど外出する機会を設け、楽しみを実感できる支援を行っていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族から少額のお金を預り、本人が希望する物を購入したり、外出先で使えるよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望により散歩やドライブに出かけている。天気の良い日はウッドデッキや玄関前のベンチで外気浴を楽しんで頂いている。遠方や頻繁な外出はホーム都合で制限が出来ることもある。	○	入居者の「その日の声」に合わせ、外出ができる体制作りを目指していきたい
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	地域の行事へ参加できるよう努めている。個別ケアとしての外出も可能な範囲で実施している。個別に家族との外出を楽しんでいただいている方もいる。	○	入居者の要望に応えられるよう、計画し実行していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の利用はほとんどない状況である。手紙が来た場合は読んで一緒に楽しんでいる。	○	本人が自由に連絡をとれる体制作りをしていきたい
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会・訪問客がある場合、気軽に寄れるような状況作りに努めている。訪問時間は特に定めなく、ゆっくりと面会をして頂けるよう、居室利用や居間での交流など状況に応じて案内している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実施している。職員会議での議題として話しあい、職員統一の理解となるよう努めている。	○	引き続き、身体拘束をしないケアを行っていく。また、言葉使いにも注意し、言葉の拘束にも注意していく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室、玄関に鍵はかけていない。入居者の行動を理解、把握して声掛けと見守りを重視している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室へ何う際は、ノックや声掛けをおこなっている。日中は常時入居者の行動等を確認し、職員同士の声掛けにより、見守りの不備がないようにしている。夜間は定時巡視のほか随時安全確認を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	各入居者の状態に合わせた環境作りを行っている。処方薬は安全性を考え預かり対応としているが、洗剤類、他の薬品類は極端に危険品としての排除はしていないが、不自然に目に付く場所には置いていない。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各入居者の状態を把握し、危険のないよう事故防止に努めている。カンファレンス等で、入居者毎に起こりえるリスクを見極め、ケア方策を検討している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故時の対応をマニュアルを基に各自の勉強として いるが、定期的な全体確認として不十分さは否めない	○	定期的な勉強会を実施していく
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火・避難訓練を定期的の実施している。近隣の職員の支援体制組みを行っている。	○	近隣の協力を得られるよう、運営推進会議や交流時に話し合っていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	家族へは現在の状態を定期的に報告している。起こりえるリスクについても説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックを毎日実施し、体調の変化をつかめるよう努めている。急変時は医師への連絡を速やかに行っている。	○	体調の変化を速やかに発見できるよう、勉強会を随時実施していく。職員間の連絡体制、方法に注意し連携強化を徹底していく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をカルテに綴じている。職員は作用について理解するよう努めている。与薬時のミスがないようチェックを行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日々の排便確認により個別に対応を検討している。症状にあわせて運動の促し、水分補給、腹部マッサージの実施を支援している。必要により下剤服用の検討も行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後実施している。声掛け、誘導、必要者には介助を実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を記録し把握を行い、状態に合わせて必要量を確保できるように継続的に支援している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防のマニュアルを設置している。感染者の方のオムツ交換時には統一対応を実施している。	○	定期勉強会実施にて理解、統一対応ができるようにしていく
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫、冷凍庫の掃除、消毒を徹底している。食器類の乾燥を行っている。食材は週2回の配達を地元のスーパーに依頼し、食品の期限確認も怠らないようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に花や木々を置き、家庭的な雰囲気づくりに努めている。玄関内も採光に気を付け、施錠のない開放的な印象となるよう心掛けている。	○	気軽に入れるような雰囲気作りを、様々な工夫を取り入れ実施していきたい
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて写真の貼り替えやポスター作りに努めている。居間からは外の景色がよく見えるようになっている。周囲の山々や公園が眺められ、見渡しが良い。居間からは台所が見える為、調理の音やにおいを直に感じられている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置に工夫し、所定の座席を設け、気の合う入居者同士ゆっくりと語り合えるよう配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持ち込み、馴染み、愛着のある本なども持参いただき居室で楽しまれている。飾り物も、本人が過ごしやすいような配置にしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日の換気や室温の調節を行い、入居者の心身状態や希望に応じて換気、空調の配慮を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は広いスペースを確保している。バリアフリー設計にて安全に配慮している。廊下・トイレ・浴室には手すりが設置してある。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室前の名札掲示やトイレの表示以外は、特別の表示は無く、各自のわかる力によって混乱なく過ごせている。職員も見極めを行い、過介護にならないよう見守りを重視している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	自由に外気浴が出来る状態である。天気の良い日はウッドデッキでレクリエーションを実施している。敷地の一部を畑にしており、季節の野菜作りを楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・母体が医療機関のため、医療面での支援が充実している。・地域でのイベント参加を積極的に行い、交流を深めている。